

ローラ・ヒカーソン
コロラド州立大学

私のおばあさんは日本人です。40年ぐらい前に、家族といっしょにアメリカへ来ました。でも、おばあさんはもう7年前に亡くなりました。

私は子どもの時、「セーラームーン」をはじめて見ました。妹と私は、すごいと思いました。おばあさんは私たちが日本のアニメが好きなのをして、うれしくなりました。おばあさんは日本の友だちに手紙を書いて、「セーラームーン」のビデオを送ってもらいました。「セーラームーン」のビデオは全部日本語で、妹と私はおばあさんといっしょにみました、そして、おばあさんは私たちのためにほんやくしてくれました。

こうこう生の時、ぜんぜん日本の文化にきょうみがありませんでした。こうこう三年の時、日本人のこうかんりゅう学生が私の学こうにきました。のぼるたまきさんでした。たまきちゃんはいいい友人になりました。私はたまきちゃんに英語やアメリカの文化を教えてあげましたそして、たまきちゃんは私に日本語や日本の文化を教えてくれました。

ある日、私は母とおばをびっくりさせるために、日本語でかずをかぞえました。二人はとともかんどうしました。母とおばは「わああ？ ローラのおばあさんがこれを聞いたら、うれしかったでしょう」と言いました。私は、びっくりしました。おばあさんが私が日本語で話すのを聞きたがるだろうと思ったことがなかったからです。おばあさんの気持ちがぜんぜんわかりませんでした。三年ぐらい前に、はじめておばあさんと日本のつながりについて考えました。私はいつも日本の物や日本の食べ物に困まれていますから、どれもじゅうようだと思いませんでした。ただ、私の友だちは、ぜんぜんうめぼしを食べないし、ほんとのおりがみや、日本のかさや、茶道や、まつりを見たこともありません。友だちには、日本の物や食べ物はふつうではありませんでした。私はおばあさんが日本の物を持ってきてくれたことに気がつきました。私には、すべてがたいせつです。でも、もうおそすぎます。おばあさんといっしょにたいせつなことについて話すことができません。

おばあさんが生きている時、何もできませんでしたから、今何かしなければなりません。それで、今私は日本語を勉強しています。おばあさんをうれしくするために、がんばります。

私のスピーチを聞いて下さってありがとうございました。